

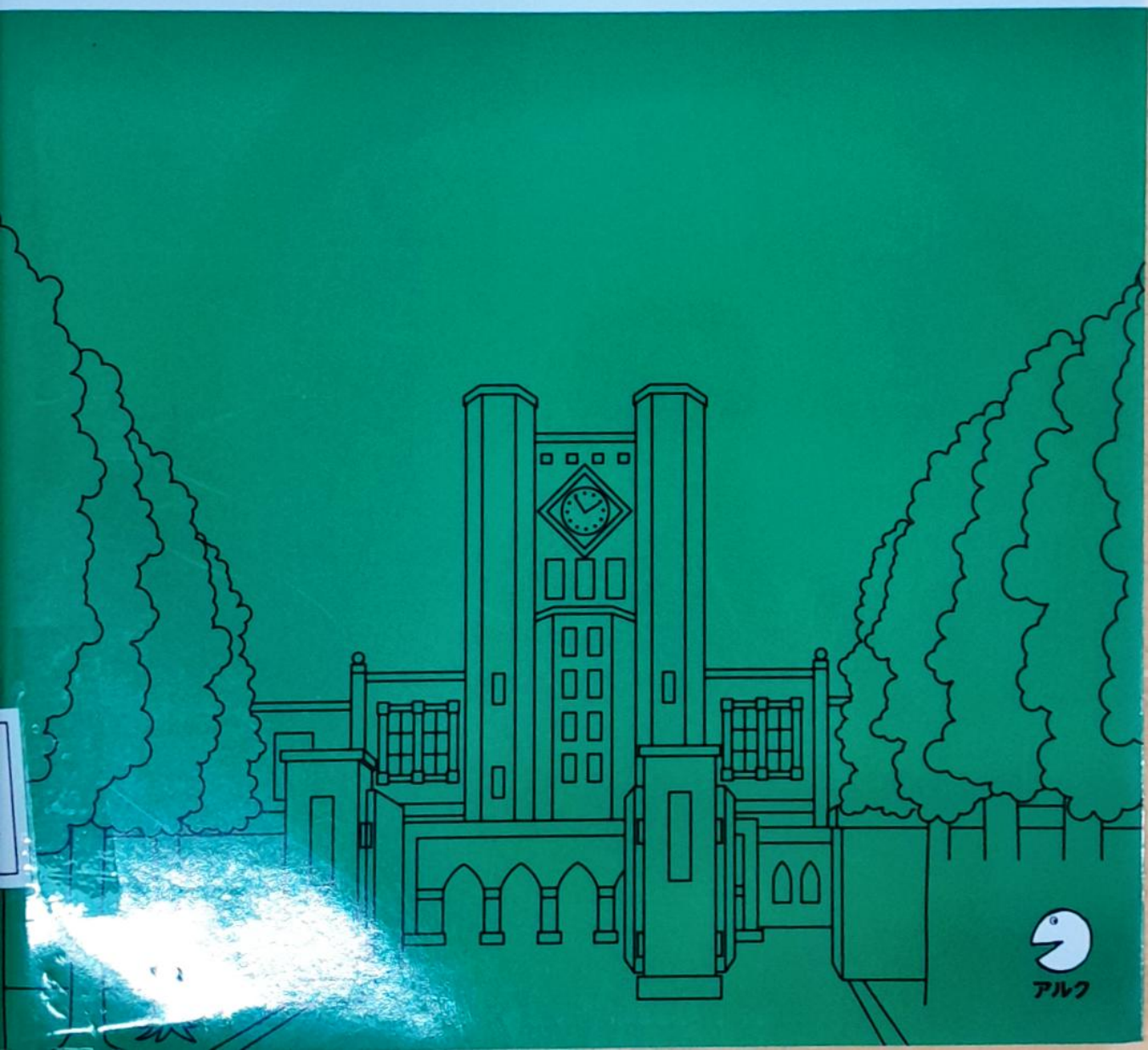
改訂版 大学・大学院

留学生の日本語

④ 論文作成編 — Writing Essays —

Japanese for International College / Graduate Students

▶ アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著



アルフ

改訂版 大学・大学院

留学生の日本語

④ 論文作成編 — Writing Essays —

Japanese for International College / Graduate Students

▶ アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著



はじめに

『大学・大学院留学生の日本語』は、日本の高等教育機関で専門分野の勉強をしようとする留学生などのために作成されたシリーズ教材です。これから日本の大学に入る人、高専や大学で学んでいる留学生、大学院入学をめざす研究生、大学院で研究している留学生や外国人研究者など、学術的な専門分野で勉強・研究をしようとするすべての日本語学習者が対象です。また、このシリーズ教材は、各専門分野にはほぼ共通する専門日本語の土台の部分を扱っていますので、文科系、理科系を問わず、どの分野の学習者にも役にたつ内容となっています。日本語の学習段階でいえば、読解編・作文編・漢字語彙編は中級、論文読解編・論文作成編は中級後半から上級に対応しています。

このシリーズ教材の最大の特徴は、専門分野での勉強・研究に不可欠な論理的思考による理解・表現能力の養成をめざしている点です。日本語の文法の積み上げ学習をし、たくさん言葉を覚えても、論理的な文章の読み書きのしかたがわからないために、大学・大学院での勉強や研究に困難を感じている学習者が少なくありません。そこで、論理的な文章がどのようなものかということが練習を重ねていくうちに自然にわかり、最後には論理的文章を読み書きする力が確実につくような教材として、このシリーズ教材を作りました。

読解教材では、素材となる文章の論理的構造に着目した読みのスキルの習得をめざしています。読解編では報告文や説明文を読む力をつけ、論文読解編では学術論文を読むための基礎的な読解力を養います。一方、作文教材では、論文等の構成や展開パターンに即した練習を積みかさねることによって、学術的文章の作成技術の獲得をめざします。作文編では研究計画書の書き方を、論文作成編ではレポート、研究発表要旨、学術論文の基本的な書き方を学びます。漢字語彙教材では、専門日本語の土台になる学術日本語の漢字語彙を学びます。

シリーズ中の各テキストは、一冊だけで学習することもできますが、併用すれば、より大きな学習効果が得られます。たとえば、読解編と作文編は、二冊を同時進行で使えばいっそう効果があがるように作られています。また、読解編や作文編を終えた人は、論文読解編や論文作成編に進めば、より高次の読解力、作文力を身につけることができるでしょう。

このシリーズ教材は、東北地方の六大学の日本語教育関係者が、共同で作成したものです。数年にわたる教材作成の過程で、東京工業大学名誉教授の仁科喜久子先生をはじめ、多くの方々に貴重なご助言とあたたかい励ましをいただきました。各専門分野の先生方や留学生にも、教材作成の素材や参考資料となる研究文献を快く提供していただきました。そして、株式会社アルク日本語編集チームのご理解とご支援をいただき、2001年から2002年にかけて『大学・大学院留学生の日本語』として出版のはこびとなりました。以後10年以上が経過したため、今回素材を時代に合ったものに入れ替えるなどして、改訂版の出版に至ったものです。協力者の方々に心から感謝の意を表します。

ほんしょ　つか　かた 本書をお使いになる方へ

I. 本書の目的

ほんしょ　に　ほん　ご　けんきゅうはつひょうようし　がくじゅうろんぶん　か　ちから　もくてき
本書は、日本語でレポート、研究発表要旨、学術論文などを書く力をつけることを目的とし、そうした学術的文章でよく使われる文型・表現や展開パターンが効率よく習得できるように作られています。中級後半から上級の日本語学習者が対象です。

II. 本書の構成

1. 全体の構成

1) 本編 (第1課～第14課)

がくじゅうぶん　か　かた　だんかいてき　まな　だい　か　だい　か　も　じ　き　ごう
学術的文章の書き方を段階的に学びます。まず、第1課と第2課で、文字や記号の書き方、書き言葉の文体と表現など、文章作成に必要な基本事項を学習します。

だい　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か
第3課からは、レポートや論文の一般的な構成に即して学習事項が配置されています。第3課と第4課では序論、第5課から第13課では本論、最後の第14課では結論の書き方を学びます。各課において、レポートや論文の各部分の構成要素、それぞれの構成要素に見られる文型・表現、そして、それらによって構築される典型的な文章の展開パターンを学習し、学術的文章の書き方の練習をします。

2) 文型・表現集 (1～33)

れぽーと　や　ろんぶん　の　か　ぶ　ん　の　か　ん　ごう　せ　い　よ　う　そ　の　か　ん　ごう　せ　い　よ　う　そ　の　か　ん　ごう　せ　い　よ　う　そ
レポートや論文の各部分の構成要素に見られる文型や表現を機能ごとにまとめ、詳しい解説を付けたものです。本編 (第2課～第13課) を学習する際に、あわせて使います。解説には簡単でわかりやすい例文も付いています。

3) 例文集

じんぶん　か　がく　し　せん　か　がく　こうがく　さまざま　けんきゅうぶん　や　へん　がくじゅうろんぶん
人文科学、社会科学、自然科学、工学など、様々な研究分野の45編の学術論文から、論文の構成要素ごとに例文を集めたものです。謝辞、注、文献の書き方の例もあります。実際にレポートや論文を書く時に参考にすることができます。

2. 各課の構成

ほんべん　だい　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か　だ　い　か
本編の第3課から第14課までは、各課とも次の六つの部分で構成されています。

- クイズ** ……その課の導入として、学習事項に関する簡単な問題を解きます。
- 構成要素** ……その課で扱う論文の部分とその構成要素を確認します。
- 展開パターン** ……構成要素の配列による文章の展開パターンを学習します。
- 文型と表現** ……その課で学ぶ構成要素に見られる文型・表現を学習します。
- 練習** ……文型・表現の使い方と展開パターンの読み取りの練習をします。

課題

……^{がくしゅう}学習した^{ぶんげい}文型・^{ひょうげん}表現を使い、^{てんかい}展開パターンに^{そく}即して^{ぶんしょう}文章を^{さくせい}作成します。

Ⅲ. 授業での扱い方

初めに、学期末に学習者自身のテーマで2000字程度の小論文を書くという目標を設定しておくとういでしょう。毎回の授業では【課題】の作文を提出させます。課題作文を授業時間内に終了させるには最低20分は必要です。作文は宿題とすることもできます。

文型・表現集は、随時本編や例文集と照らし合わせて利用するよう、学習者に指示してください。授業では、各課の【文型と表現】のところで文型・表現集の該当する部分を参照しながら、適宜解説します。

例文集を授業の中で利用することは、中級レベルのクラスでは、学習者の能力や時間的制約からいって難しいかもしれません。上級レベルのクラスでは、必要に応じて参照させ、理解の助けとすることが可能です。

以下は、本編の各課の各部分の扱い方です。

クイズ

クラスで解答を出していく過程で、その課の学習事項のポイントがつかめるようであれば理想的です。正解がなかなか出ない場合は、疑問点として残しておき、後の授業の中で解答を見つけさせることもできます。

展開パターン

課題作文でどの展開パターンを用いるかを、ここで確認しておきます。

文型と表現

文型・表現集を併用して説明してください。文型・表現集の解説の例文は、学習者に音読させるとよいでしょう。

練習

第3課以降の練習の2は、時間を与えて答えを考えさせるようにしてください。

課題

第3課以降では、2問のうち1問を選んで書かせます。文章の長短は問わず、学習した展開パターンと文型・表現が適切に使われているかどうかにご留意ください。

このほか、各課ごとの細かい留意点については、別冊子の「各課の解説」に記しましたので、ご覧ください。

執筆担当 佐藤勢紀子

もくじ

はじめに	3	
本書をお使いになる方へ	4	
第1課 作文の基本 (1)	8	
文字や記号の書き方		
記号のはたらき		
第2課 作文の基本 (2)	12	
文体		
表現		
第3課 課題の提示	16	
論文の構成要素		
序論の構成要素 (1)		
課題の提示	問題解決の必要条件の提示	研究行動の提示
第4課 目的の提示	22	
序論の構成要素 (2)		
研究テーマの説明	先行研究の問題点の指摘	研究目的の提示
第5課 定義と分類	26	
本論の構成要素 (1)		
定義	分類	選択
第6課 図表の提示	30	
本論の構成要素 (2)		
図表の提示	数値の大きさの表示	数値の大きさの評価
第7課 変化の形容	34	
本論の構成要素 (3)		
変化の形容	変化の進行の指摘	判明事項の指摘

だい 8 課	たい び ひ かく 対比と比較	38
	ほんろん こうせいようそ 本論の構成要素 (4)		
	たい び ひ かく 対比 比較		
だい 9 課	げんいん こうさつ 原因の考察	42
	ほんろん こうせいようそ 本論の構成要素 (5)		
	げんいん こうさつ よそく 原因の考察 予測		
だい 10 課	れつぎよ 列挙	46
	ほんろん こうせいようそ 本論の構成要素 (6)		
	そんざい してき れつぎよ 存在の指摘 列挙		
だい 11 課	いんよう 引用	50
	ほんろん こうせいようそ 本論の構成要素 (7)		
	ろんてん ていじ いんよう 論点の提示 引用		
だい 12 課	どうい ほんろん 同意と反論	54
	ほんろん こうせいようそ 本論の構成要素 (8)		
	どうい ほんろん ちゆ ぶんけん きじゆつ 同意 反論 注/文献の記述		
だい 13 課	きけつ 帰結	59
	ほんろん こうせいようそ 本論の構成要素 (9)		
	きけつ かんげん ほそく 帰結 換言 補足		
だい 14 課	けつろん ていじ 結論の提示	64
	けつろん こうせいようそ 結論の構成要素		
	けんきうこうどう かくにん けつろん ていじ けんきうひやうか こんご かいだい してき 研究行動の確認 結論の提示 研究の評価 今後の課題の指摘		
ぶんけい ひょうげんしゆ	67	67
	ぶんけい ひょうげん 文型・表現 1 ~ 33		
れいぶんしゆ	101	101
	こうせいようそ しゆじ ちゆ ぶんけん 構成要素 a ~ z 謝辞 注 文献		
	れいぶんしゆ しゆてん 例文集の出典		
しやうていいちらん	136	136
	出典一覧		

—会員一覧—

市瀬 智紀 (いちのせ ともり)	高木 裕子 (たかぎ ひろこ)
稲村 真理子 (いなむら まりこ)	中島 美樹子 (なかじま みきこ)
内山 敦子 (うちやま あつこ)	仁科 浩美 (にしな ひろみ)
小山 宣子 (おやま のぶこ)	福島 悦子 (ふくしま えつこ)
川上 郁雄 (かわかみ いくお)	松岡 洋子 (まつおか ようこ)
小池 恵己子 (こいけ えみこ)	宮本 律子 (みやもと りつこ)
佐々木 順子 (ささき よりこ)	山口 弘美 (やまぐち ひろみ)
*佐藤 勢紀子 (さとう せきこ)	山田 一裕 (やまだ かずひろ)

(*は執筆担当者)

このテキストについてのご意見などありましたら、下記までご連絡ください。

〒980-8576 仙台市青葉区川内 41
東北大学高度教養教育・学生支援機構 気付
アカデミック・ジャパニーズ研究会

改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ④ 論文作成編

発行日	2001年10月10日(初版) 2015年5月28日(改訂版) 2022年7月8日(改訂版第6刷)
編著者	アカデミック・ジャパニーズ研究会
編集	株式会社アルク出版編集部、株式会社エディボック
デザイン・DTP	株式会社エディボック、株式会社エヌ・オフィス
印刷・製本	萩原印刷株式会社
発行者	天野智之
発行所	株式会社アルク 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-6 市ヶ谷ビル Website: https://www.alc.co.jp/

落丁本、乱丁本は弊社にてお取り替えいたしております。

Web お問い合わせフォームにてご連絡ください。

<https://www.alc.co.jp/inquiry/>

本書の全部または一部の無断転載を禁じます。

著作権法上で認められた場合を除いて、本書からのコピーを禁じます。

定価はカバーに表示してあります。

製品サポート: <https://www.alc.co.jp/usersupport/>

©2015 稲村真理子 / 市瀬智紀 / 内山敦子 / 大口健志 / 岡崎正道 / 小山宣子 /
川上郁雄 / 小池恵己子 / 佐々木順子 / 佐藤勢紀子 / 高木裕子 / 中島美樹子 / 仁科浩美 /
福島悦子 / 松岡洋子 / 宮本律子 / 山口弘美 / 山田一裕 / ALC PRESS INC.
Printed in Japan.

PC : 7015020
ISBN : 978-4-7574-2634-4



地球人ネットワークを創る



アルクのシンボル
「地球人マーク」です。